

## H20 年度響友会活動報告内容（H21、3、7 現在）

響友会活動の目的は、会員の親睦を図ること、現役に協力し援助すること。

親睦に関する活動として

交流の場の設定（総会、響友会コーナー）、機関誌（あてんぼ）の発行配布  
会員名簿の発行配布、ホームページの運営

現役への協力援助に関する活動として

コンサート（サマコン、定演）の広報、活動資金の援助・活動記録（あてんぼに連載）

これを支える活動として

会計活動（会費徴収活動）

人事活動（常任理事会活動）

東京独自の活動は、後ほど東京支部の方から申し上げる

「人事活動（常任理事の出入り）」

4月 山地順子氏 東京へ転勤

6月 岩畔昌仁氏 常任理事（名簿担当）

11月 藤原興氏 東京支部長・常任理事を退任。後任に村上憲司氏が就任

以上により現在の常任理事

大阪：橋本一・田中・水垣・富田・曾野・黒田・古閑・太田・橋本宏・小田川・国見・  
岩畔・高田・森・東岡 15名

東京：笹井・村上・谷口・山地 4名

常任理事会は、5回（4月、6月、9月、11月、2月、）開催

メールによる事前意見交換は活用

「親睦」促進活動

★交流の場づくり1 20年度（H21年開催）総会

4月の理事会で昨年3月の総会を総括し今年の大筋を決めた。

「19年度総会は参加人数が27名で少なく年代のカタヨリもあったが規模は小さいながら楽しく気分のよい会合で、総会のひとつのモデルになった。オーケストラ演奏を含む大規模スタイルは2～3年ごとの開催でよいのではないか」、に基づき、今年も昨年と同様のスタイルとした。会場も昨年と同じにした。100年記念館を使いたいところ。

★交流の場づくり2 響友会コーナー

「再会の広場」「情報の提供」。平成14年12月の定演から実施。今年も7月のサマコン、12月の定演で設営した。大体30名が立ち寄る。

★あてんぼ

H7年創刊。同年は2回と臨時を1回。その後、年1回。H15,16年は年2回発行。H17年から年1回の発行。

編集担当者が水垣から国見に交代。

例年通りサマコンの案内発送にタイミングを合わせ第 17 号を発行した。りれー随想、神戸大学オーケストラの歩み（17 号には休載）協力を謝す。

因みにこのための作業は 12 月からスタート。2 月 3 月で徐々に原稿が集まり、4 月原稿仕上げと印刷発注、5 月完成。

#### ★名簿

H19 年度において、完全改定版を作成し全員に配布する予定であったが、結果的に修正版と住所不明者のリストを定期演奏会の案内のときに配布した、にとどまった。

今年度、個人情報の管理、ニーズの多様化、費用との関連などへの対応について理事会内で論議を重ね、新しい運営方針をさだめ、これを「響友会名簿管理規定」にまとめて、「重要なお知らせ」という案内をつけてサマコン案内の際に、会費の納入状況にかかわらず住所が判明している会員のすべてに配布した。

また、常任理事会内に新任 1 名を含む 3 名で名簿分科会を発足させ、今後の問題に対処する体制とした。

2009 年 5 月ころ新方針による名簿を発行。配布予定（重要なお知らせに記載）。

表示・卒業年を入学年に、勤務先は表示しない。住所・メールアドレス・電話・ファックスは希望があれば非表示にすることができる 「重要なお知らせ」を見直して欲しい。

#### ★ホームページ

あてんぼの記事、名簿などのデータの修正、総会参加申し込みなどへの充実を図っているのでせいぜい利用していただきたい。

#### 「現役協力・援助」活動

#### ★コンサートの広報

5 月：サマコン、11 月：定期演奏会 案内(招待状、チラシ)を発送した。

#### ★活動資金の補助

・例年の活動 年間 40 万円をサマコンと定演のときに 20 万円づつ拠出する。

平成 20 年度は、6 月 21 日のサマーコンサート、12 月 26 日の定期演奏会当日、ゲネプロ終了後のステージ上で例年通りの各 20 万円を贈呈した。

・ウイーン遠征へのカンパ活動。

大学と現役からの要請に基づきサマコン案内発送の際、趣意書を同封。

会員 105 名・非会員 1 名の賛同を得て 449000 円を募金。現役に渡した。

現役のお礼、レポートを定期演奏会案内に同封した。

#### ★あてんぼへの掲載

オケの歩み。17 号では原稿が間に合わず休載。18 号に一括掲載の予定。

★現役との連携をスムーズに行うよう努めている。

#### 「会費徴収活動」

会計報告として別途報告する。

以上